

JNEF で初めて壇上に立つあなたのためのチェックリスト 2015

まず、なにを伝えたいのか、ワンフレーズの英語で言ってみてください。ワンフレーズで明確に言えない演者の方は、プレゼンの内容が熟していない、準備不足です。

プレゼンテーションとは、とは何か？東京オリンピックの誘致のためのプレゼンを思い出してください。それは、

- 1) written English をしゃべることはありません。しゃべるためには、原稿を捨てて、新たな”presentation tuning”が必要です。「ゆっくり」「はっきり」、です。
- 2) 「伝えたいという情熱」(=with enthusiasm and emotion) がこもっていなければ、相手の胸には届きません。どんなに発音が正しくても、パソコンがしゃべるような monotone は、まったく、いただけません。

学会でのプレゼンテーションは、スライドショーを機械的にめくって流すことではありません。それは以下の3つのコンポーネントから成り立っています。

- ① Opening: tell them what I am going to say
- ② Body: say it!
- ③ Conclusion: tell them what I said

従って、結論を（時間がないからと言って）略すことは、プレゼンを中断したと同罪、禁忌です。

さて、第一声を発する前の心構えです。

- まず、マイクを自分の高さにあわせてください
- タイトルのスライドからポインターは使いましょう（マウス使用可）
- マイクは必ず、非利き手に持って、話す。利き手でマウスを使う。
- 原稿の朗読は決してやってはいけません。暗記して聴衆に向かって語りかけてください。スクリーンを決して見てはならない。
- パソコンの画面を見ながら話をし、ポインターの代わりにマウスを画面で使えば、聴衆に背を向けないですみます。

タイトルスライドは、

- タイトル、著者名、施設名（順：デパートメント、施設、場所 or 地名）
- 著者名はフルネームを記す
- 施設名の後に地名を入れることを推奨
例：○○○ University, Kobe Japan

症例提示についてよくあるミスをいくつか挙げます。

- 個人情報に注意：患者のイニシャル表示、ID#表示は禁忌。また、画像データ中の患者名やIDなどは必ず削除しておく
- 施設の略称は禁忌：×Dpt.→○Department、×Uni.→○University
- 症例報告で、いきなり症例の提示から始めるのは、礼儀知らず、です。まず、その症例を報告する目的を述べてください。原著論文の序文と同様に、何のために、何を明らかにするために、その症例を報告するのかと言う理由を説明してください。あなたが珍しい症例を経験したと思ったとしても、「珍しいから」というだけでは、なんら他の人に聞かせる理由にはなりません。
- 使い慣れている略語でもできるだけフルにしゃべることがマナーです。
 - × SAH → ○ subarachnoid hemorrhage
 - × ICA → ○ internal carotid artery
- 数字と単位の間スペースに注意：×700mm→○700[]mm、 ×20Gy→○20[]Gy
- ただし、%はスペース不要：×98.5[]%→○98.5%

